

SDGsの取り組み方:ドイツの事例から

(公財)地球環境戦略研究機関
持続可能性ガバナンスセンター
小野田真二・天沼伸恵・吉田哲郎



2019年9月6日(金)
『SDGs実施指針』改定に向けたステークホルダー会議

お話すること

1. SDGs達成への進捗度ランキング
SDSNダッシュボードとその方法論・課題
2. ドイツのSDGsの取り組み方
 - ①SD戦略・目標策定の経緯とプロセス
 - ②指標・ターゲットと進捗評価の方法
 - ③SDマネジメント体制
3. まとめと教訓

SDGs達成への進捗度ランキング

SDSN・ベルテルスマン財団 2019年報告書

Country	Region	SDGs	Rank ^	Score
Denmark	OECD members		1	85.2
Sweden	OECD members		2	85.0
Finland	OECD members		3	82.8
France	OECD members		4	81.5
Austria	OECD members		5	81.1
Germany	OECD members		6	81.1
Czech Republic	OECD members		7	80.7
Norway	OECD members		8	80.7
Netherlands	OECD members		9	80.4
Estonia	OECD members		10	80.2
Japan	OECD members		15	78.9

ドイツにおけるSD戦略・ 目標策定の経緯とプロセス



「ドイツ持続可能な開発戦略」(GSDS)策定の経緯

1. SDGs以前から持続可能な開発戦略とレビューサイクルを確立



※2年ごとに指標レポートも作成。(2006～2018年まで計7冊)

2. ステークホルダーとの対話をもとに、時間をかけて2016年改訂版を策定

- 2015年10月末～2016年2月：主要都市で第一期対話
- 2016年春：メルケル首相によるドラフト発表
- 2016年夏：ドラフトに対するヒアリング、市民参加、VNRなど
- 2016年冬：ドラフトの修正、事務次官会議で採択。
- 2017年1月：閣議決定

「ドイツ持続可能な開発戦略」(GSDS)策定の経緯

3. 2018年update版では、国際的なレビューも実施

- GSDS2016改訂版を策定後、国際的ピアレビューを開始。(2009年、2013年も実施。2030アジェンダを議論するのは初)
- 2017年5月にヘレン・クラーク氏(元NZ首相、前UNDP事務局長)を議長に指名。全11名の国際的な専門家で構成(中国、フランス、メキシコ、南アフリカ、NZなど)。
- 2017年10月から6週間のサーベイを実施。
- 2018年2月には、ベルリンで1週間の専門家との対話。100名近くが参加。
- 2018年4月にメルケル首相に手交。11の提言と66のサブアイテムを含む。



© German Council for Sustainable Development

GSDS(2016年改訂版)の構成

[P.11～15] サマリー

[P.16～23] Chapter A: 持続可能性に関する現在の課題

[P.24～52] Chapter B: ドイツ持続可能な開発戦略

- 戦略の目的と原則
- 戦略の構造と機能(e.g. 制度、マネジメント、コミュニケーション)
- 州政府／市町村、市民社会、EU、国際プロセスの役割

[P.53～222] Chapter C: SDGsを達成するためのドイツの貢献

- 17のゴール毎に、
 - a) 基本的な内容、ドイツの優先事項
 - b) 各ゴールに対応するドイツのターゲットと指標(1～6つ)、統計局の分析、各指標の取組・対策、将来の計画など

[P.223～234] Chapter D: 主要なパートナー

[P.236～244] Chapter E: 持続可能性マネジメントシステムの概要

ドイツの指標・ターゲットと 進捗評価の方法

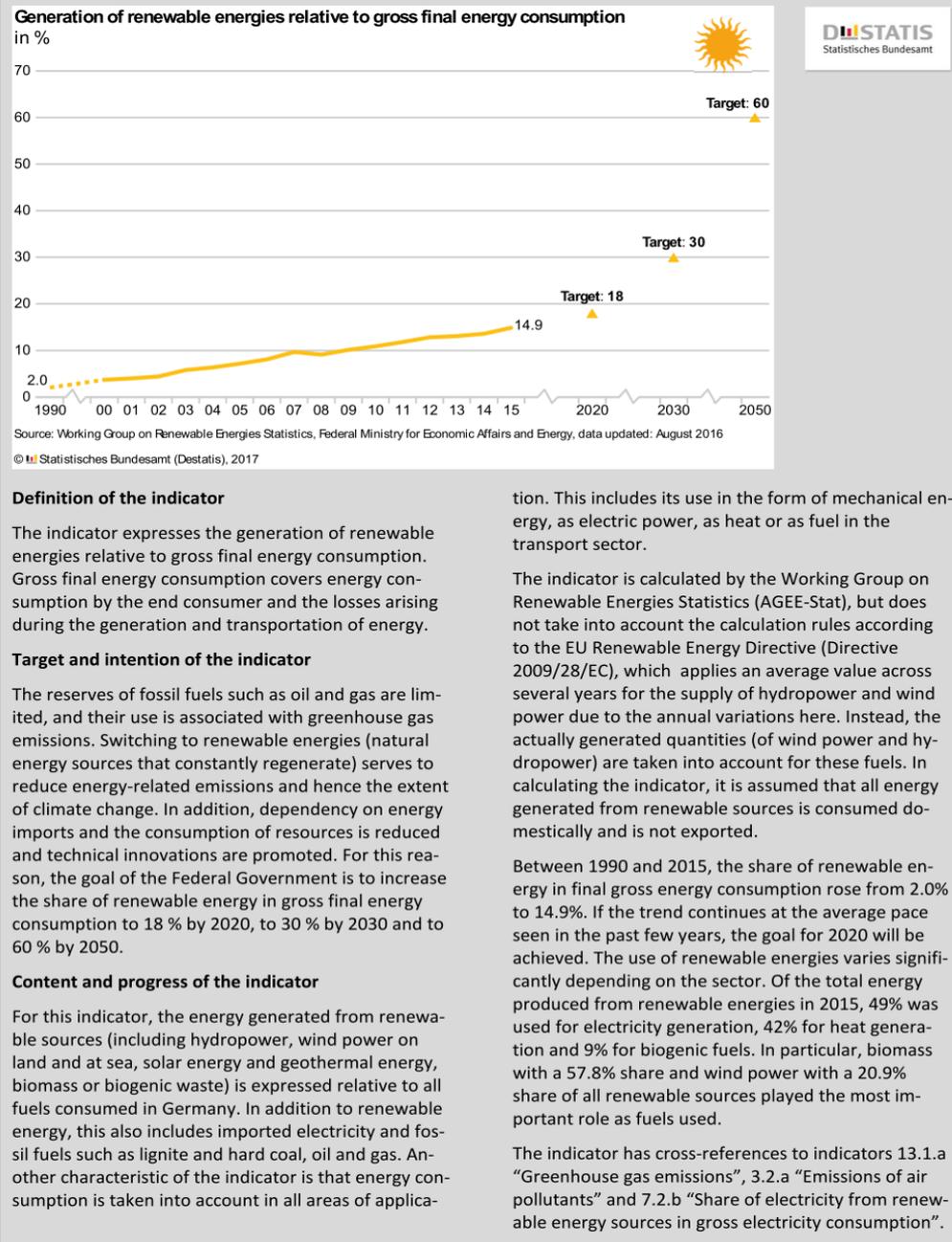


No.	Indicator field <i>Sustainability postulate</i>	Indicators	Targets	Status
SDG 6. Ensure availability and sustainable management of water and sanitation for all				
6.1.a	Water quality <i>Reducing the pollution of water with substances</i>	Phosphorous in flowing waters	The benchmark values for specific types of water to be met or beaten at all monitoring points by 2030	
6.1.b		Nitrate in groundwater – proportion of monitoring points in Germany at which the threshold of 50 mg/l for nitrate is exceeded	“50 mg/l” of nitrate in groundwater to be complied with by 2030	
6.2	Clean water and sanitation <i>Better access to drinking water and sanitation worldwide, higher (safer) quality</i>	Number of people gaining access to drinking water and sanitation through support from Germany	10 million people a year to gain access to water up to 2030	
SDG 7. Ensure access to affordable, reliable, sustainable and modern energy for all				
7.1.a	Resource conservation <i>Using resources economically and efficiently</i>	Final energy productivity	Final energy productivity to be increased by 2.1 percent per year from 2008 to 2050	
7.1.b		Primary energy consumption	To be reduced by 20 percent by 2020 and 50 percent by 2050 compared to 2008	
7.2.a	Renewable energy <i>Strengthening a sustainable energy supply</i>	Share of renewable energy sources in gross final energy consumption	To be increased to 18 percent by 2020, to 30 percent by 2030 and 60 percent by 2050	
7.2.b		Share of renewable energies in gross electricity consumption	To be increased to at least 35 percent by 2020, to at least 50 percent by 2030, to at least 65 percent by 2040 and to at least 80 percent by 2050	

ドイツの指標と
ターゲット
(SDGsのゴール6
とゴール7の例)

	すでに達成、もしくは現在の傾向が続く場合に達成まで5%未満。		正しい方向に向かっている。現在の傾向が続く場合に、達成まで5%~20%のギャップがある。
	正しい方向に向かっている。現在の傾向が続く場合に達成まで20%以上のギャップがある。		誤った方向に向かっている。

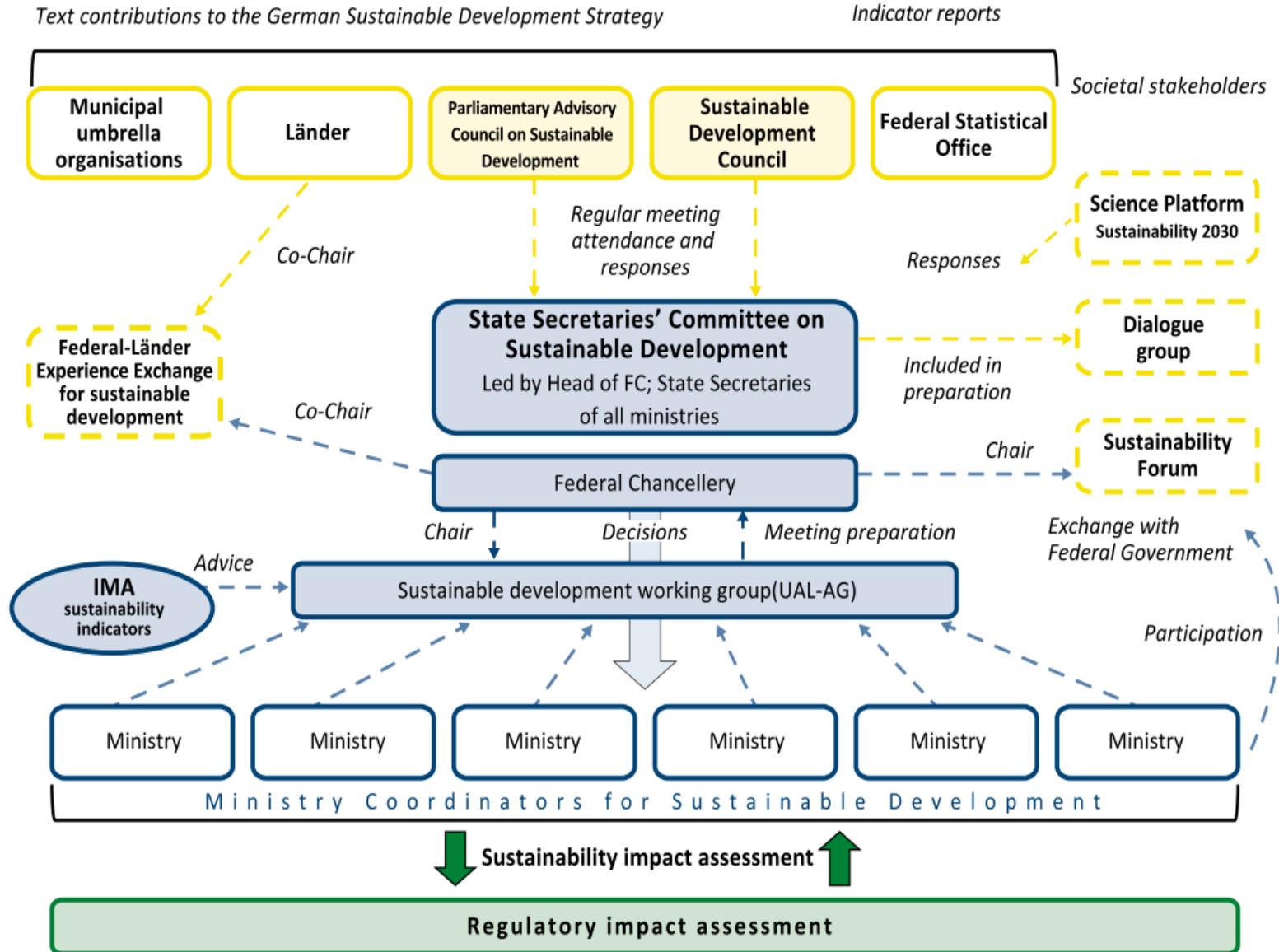
7.2aと7.2bに関する 詳細な解説



ドイツのSDマネジメント体制



制度的アレンジメント



複数のレベルでの連携

- ✓ **省庁間連携：持続可能な開発に関する事務次官会議**
 - 全省庁の事務次官が参加。決定事項は公表。
 - 政策の一貫性確保とコミュニケーションを目的。実質的な議論。
 - 担当者レベルのワーキンググループ、コーディネーター間でも情報交換・連携
- ✓ **政治の意見：持続可能な開発のための議会諮問委員会 (2004-)**
 - 超党派の連邦議会議員が参加。選挙後に毎回設置。
 - GSDS(議会を通さない)の目標・対策・手段に関して助言。
 - 各省が全法律案に行う持続可能性インパクトアセスメントの結果を評価。
- ✓ **専門家の参画：国家持続可能な開発委員会 (2000-)**
 - 首相府の下に設置。独立した組織。独立した事務局。
 - 政府への助言、持続可能性に関する市民意識向上・市民対話への貢献など。
 - 多様なバックグラウンドの15人の有識者により構成。

SDGsとの統合、政策の一貫性確保の仕組み

- ✓ 政策形成における一般的要求事項としての持続可能性の6原則

- ✓ 持続可能な開発のための省内コーディネーターを指名
 - 省内のコンタクトパーソンであり、GSDS実施の責任者

- ✓ 持続可能性インパクトアセスメント (2009-)

- 各省が新しい法案や法令を作成する際に、GSDGIにどう貢献するか。法律がどのようなインパクトをもたらすかを記述する。
- 議会諮問員会によりチェックされ、不十分な場合には、修正の必要。
- オンラインシステムeNAPで体系的に実施可能に。(2018-)

Principles for sustainable development

- 1. Apply sustainable development as a guiding principle at all times and in all areas*
- 2. Assume global responsibility*
- 3. Strengthen the natural resource base on which life depends*
- 4. Strengthen sustainable economic activity*
- 5. Preserve and enhance social cohesion in an open society*
- 6. Use education, science and research, and innovation as drivers of sustainable development*

SDG 1 KEINE ARMUT

Armut in jeder Form und überall beenden



	KEINE ARMUT
	KEIN HUNGER
	GESUNDHEIT UND WOHLERGEHEN
	HOCHWERTIGE BILDUNG
	GESCHLECHTERGLEICHHEIT
	SAUBERES WASSER UND SANITÄREINRICHTUNGEN
	BEZAHLBARE UND SAUBERE ENERGIE
	MENSCHENWÜRDIGE ARBEIT UND WIRTSCHAFTSWACHSTUM
	INDUSTRIE, INNOVATION UND INFRASTRUKTUR

1.1 Armut

Armut begrenzen

Ist dieser Indikatorenbereich für das Regelungsvorhaben relevant? relevant nicht relevant

1.1.a Materielle Deprivation

Ziel: Anteil der Personen, die materiell depriviert sind, bis 2030 deutlich unter EU-28 Wert halten

Ihre Begründung:

Das Regelungsvorhaben Beispiel adressiert den Bereich "Materielle Deprivation" (Indikator 1.1.a) der Deutschen Nachhaltigkeitsstrategie. [...]

1.1.b Erhebliche materielle Deprivation

Ziel: Anteil der Personen, die erheblich materiell depriviert sind, bis 2030 deutlich unter EU-28 Wert halten

Ihre Begründung:

その他

・統計局は2019年7月に、German National Reporting Platform on the SDG Indicatorsを開始。グローバルなSDGs指標に関する国のデータがダウンロード可能。(2019.8-)

まとめと教訓



✓ SDGs進捗度ランキングについて

- 課題は多くある。(不十分なデータ、方法論、微妙なポイント差)
- とはいえ、SDGsのための国内の指標やターゲットを揃えていない国には参考になるし、議論の出発点になるのではないか。
(指標という点では、ESCAPのアジア太平洋SDGs進捗報告なども参考になる。)

✓ ドイツは15年以上にわたって取り組んできた結果、今の形ができていることに留意すべきであるが、

- SDGsができてからも、新たな仕組み・取組みを取り入れている。
- 多様なステークホルダーの意見を丁寧に聞くプロセスが採られている。
- 独立性が高い委員会・場が設定されている(国際レビューや持続可能な開発委員会、科学プラットフォームなど)。
- 政権交代が起きても、持続可能な開発戦略の根幹は維持されている。
(諮問委員会の効果?) → 政治家の理解もある

(つづき)

- SDGsと調和する形で、ドイツとして、2030年に目指す目標(ターゲット)と、その進捗を測定するための指標が立てられている。
 - しっかりとしたレビューの仕組みも構築されている。
 - NSDSと政策との一貫性を確保するための仕組みが構築されている。(持続可能性アセスメント、コーディネーター、省庁間連携の仕組み)
→ SDGsに関連する政策のみを寄せ集めた形にならない。
- ✓ 今後に向けて ～ 国のターゲットが明確になると ～
- 企業としては、国のターゲットにどれだけ貢献できるかを数値で表そうとする動機は働くか？
 - それによりSDGsが取り組みやすくなったり、アピールをしやすくなるか？
 - 他にメリット・デメリットは？

ご清聴ありがとうございました。